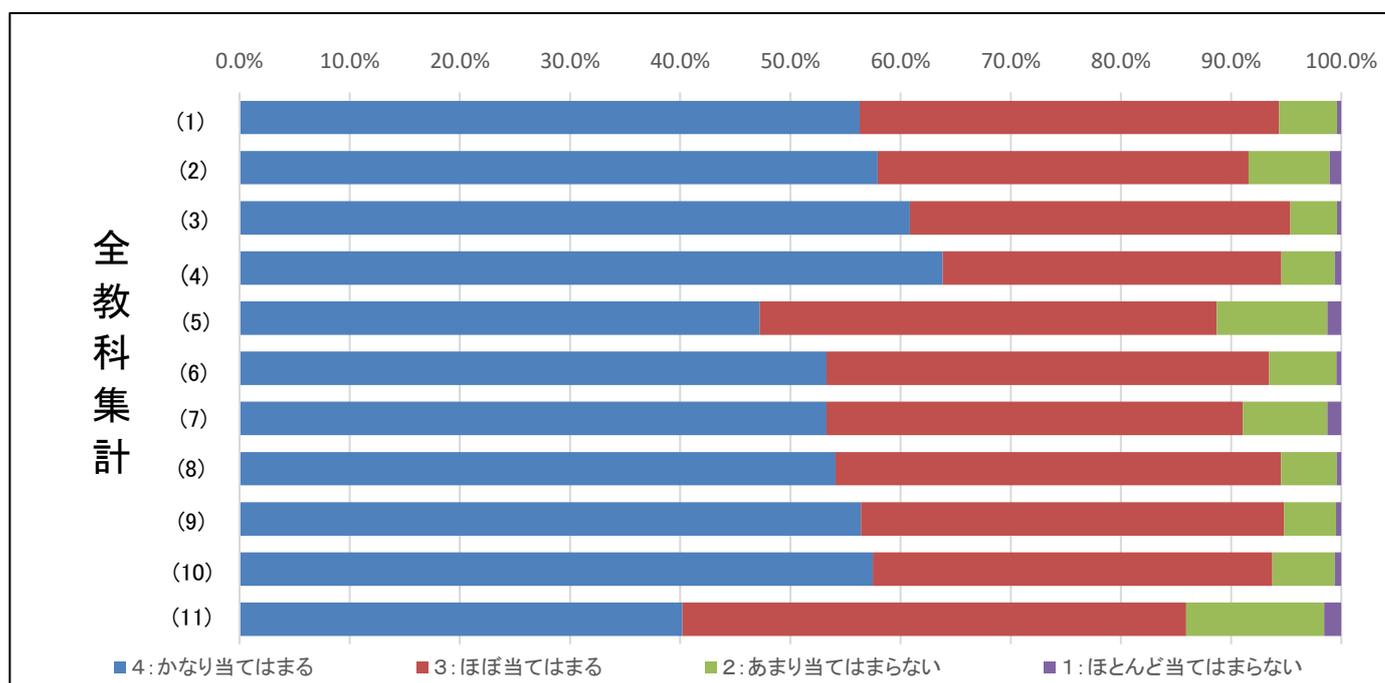
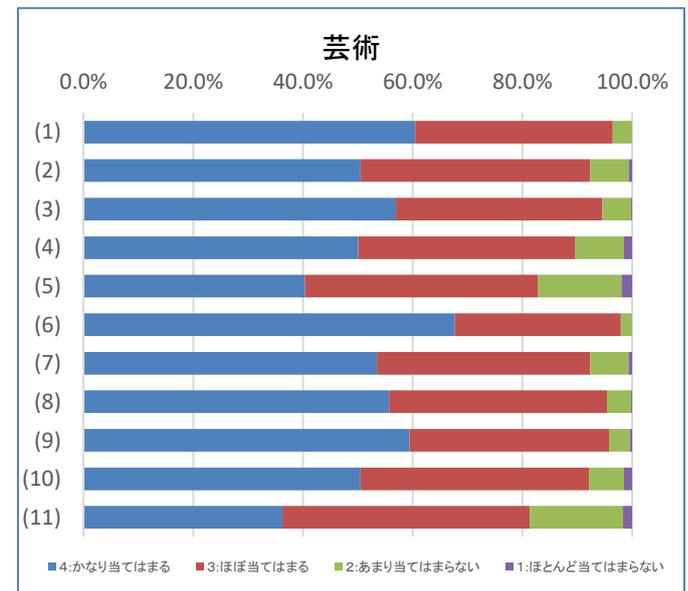
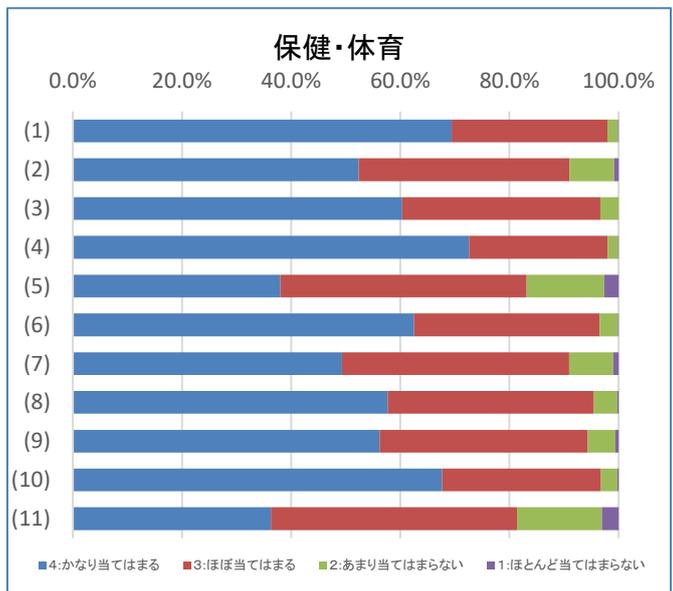
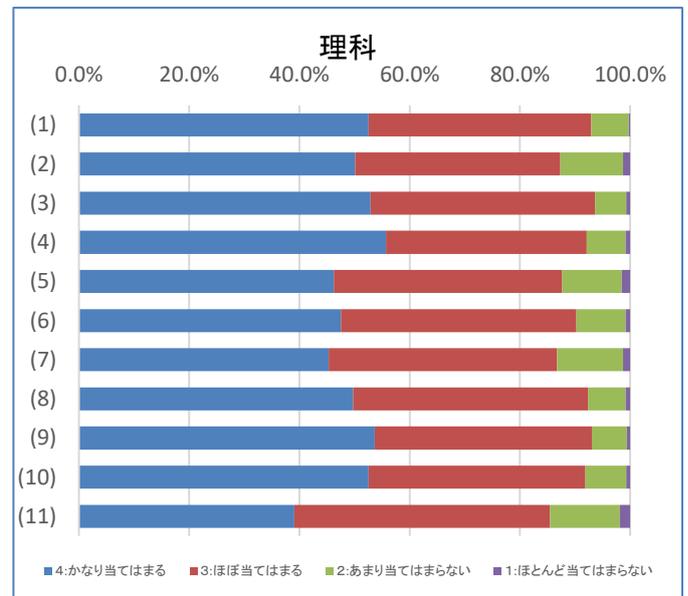
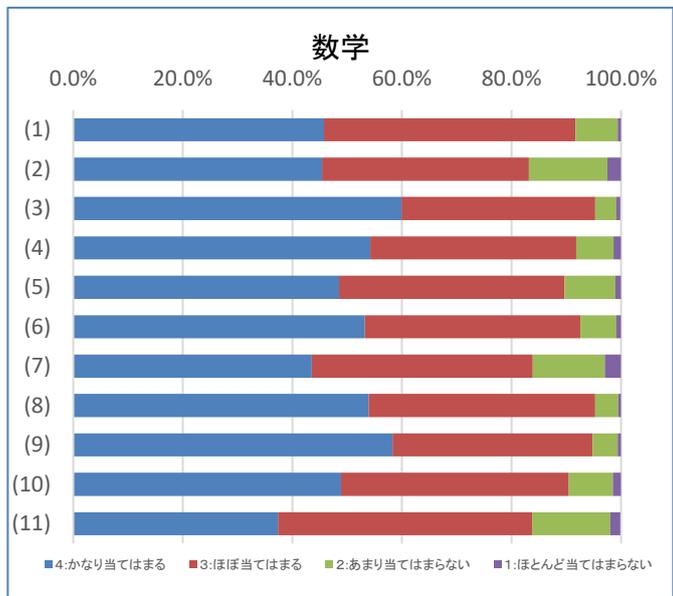
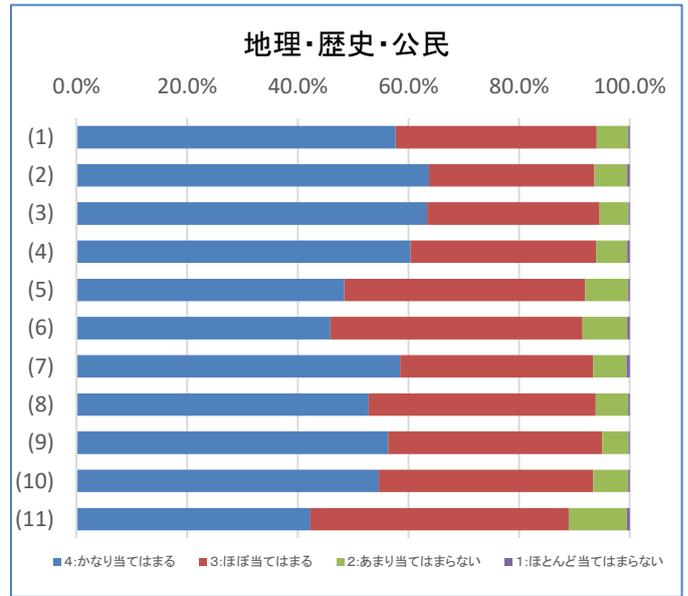
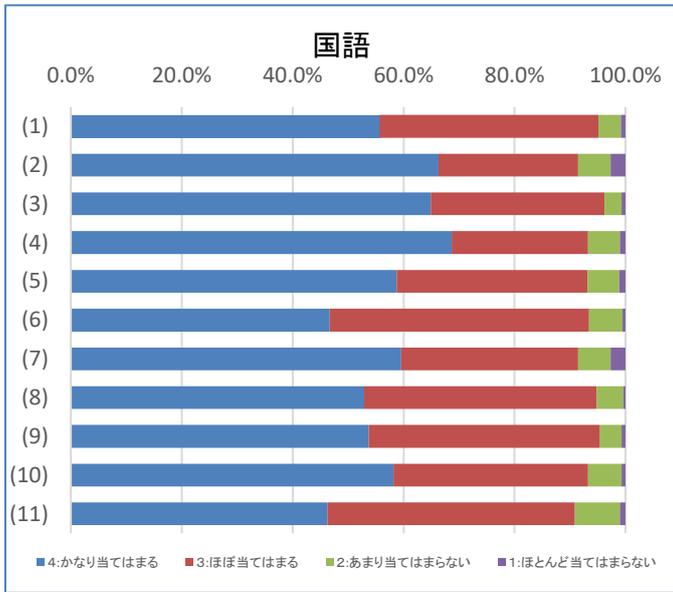
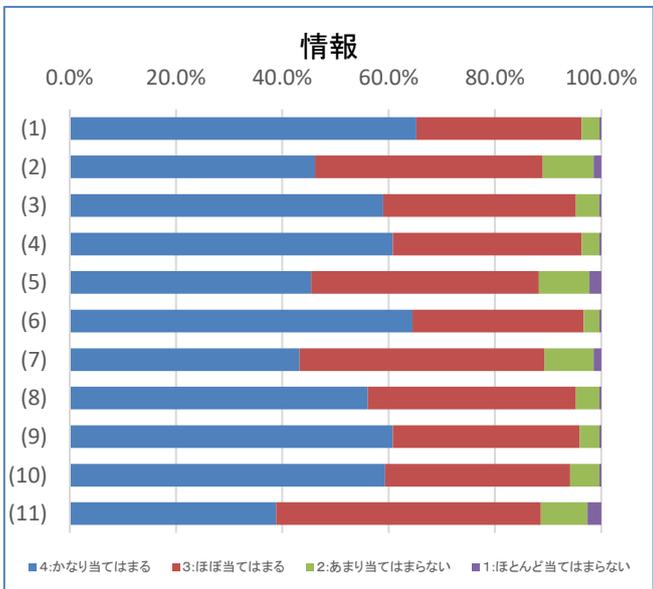
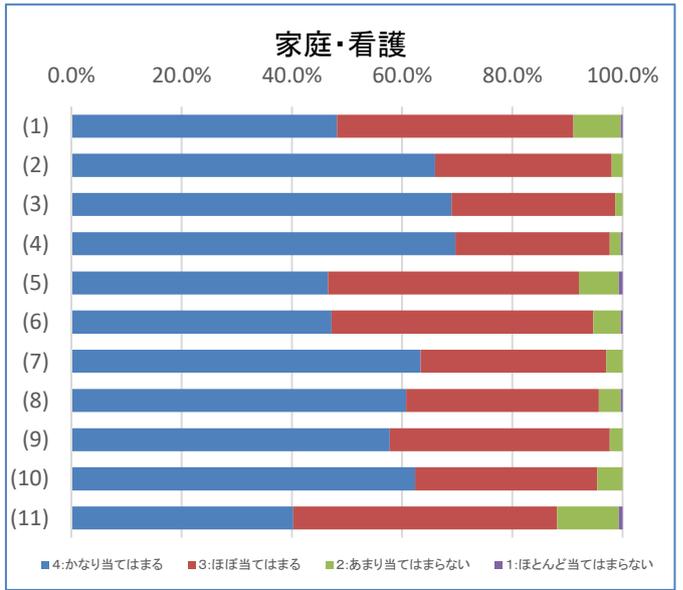
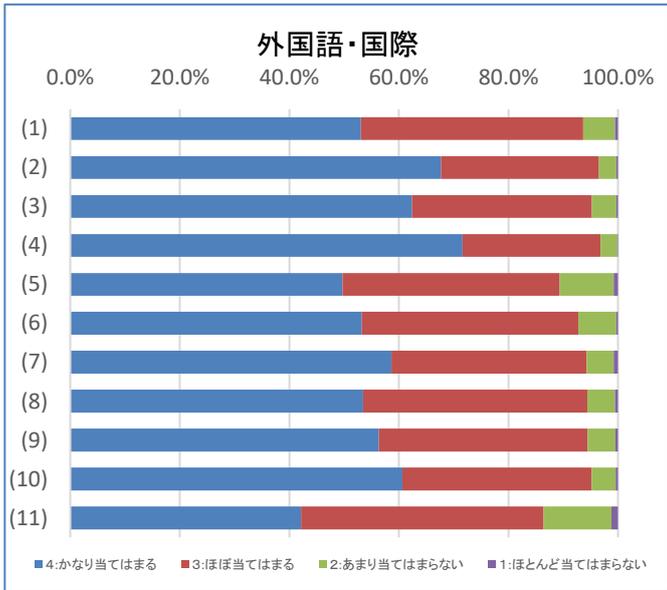


令和4年度 第2回「生徒による授業評価」集計結果一覧 (令和4年11月14～11月30日実施)

大項目	小項目	
授業の在り方について	(1)	毎時間の授業や単元(内容のまとめ)のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある。
	(2)	単元(内容のまとめ)の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。
	(3)	単元(内容のまとめ)の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある。
	(4)	主体的・協働的に課題を解決する場面がある。
	(5)	批判的・論理的に思考し、表現する学習活動がある。
学習の状況について	(6)	授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた。
	(7)	他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えをができた。
	(8)	授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた。
	(9)	授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた。
	(10)	主体的・協働的に課題を解決に取り組むことができた。
	(11)	批判的・論理的に思考し、表現することができた。
評価について	各授業内にて記名式で行い、「4:かなり当てはまる、3:ほぼ当てはまる、2:あまり当てはまらない、1:ほとんど当てはまらない」の4段階で評価する。	







令和4年度 第2回「生徒による授業評価」教科検討事項

教科		授業評価分析結果・課題点	授業改善に向けての具体的取組み
国語		<ul style="list-style-type: none"> 満足度はおおむね高い。 協働的に課題を解決する場面が多く、他者の考えを知る機会がある。 他の回答と比較して、「批判的・論理的に思考し、表現することができた」という項目で「あまりそう思わない」と答えた生徒が多い科目がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科での打ち合わせをより積極的に行い、互いの指導について改善点を考える。 生徒同士の交流活動の際、活動の目的や意図を指導者が意識して行い、形式のみの指導にならないように配慮する。 多くの教材を扱ったり、教材で学んだことを表現活動に生かしたりすることにより、生徒に多角的に考えるための機会を与える。
地理 歴史 公民		<ul style="list-style-type: none"> 全講座を通じて満足度(4or3)が高い。世界史・日本史・政経の研究科目での満足度は高いので引き続き生徒の主体性を引き出す授業展開を行い 公共で(6)の授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた。という項目の評価を2としている生徒が30人いるので、実感させる工夫が必要かもしれない。 歴史総合では1人1台端末を活用して資料提示などで活用しているが、生徒の評価も良いのでさらに改善していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 複数の担当で指導していると進路や内容をそろえるのは困難だが、コミュニケーションをとって授業改善を図りたい。 単元ごとの疑問点や意識するポイント、継続的に身に付けさせたい能力(学力)は何かを教員と生徒間で相互理解するためにスプレッドシートを活用して振り返りシートを作成・活用する。
数学		<ul style="list-style-type: none"> 満足度は概ね高いといえるが生徒間の学力差が大きくその差が満足度に影響していると考えられる。 以前に比べIT機器の利用、活用が大きく進み、内容の理解度が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在も数学ⅠやⅡで習熟度編成を行っているが同じ授業内でも難易度の異なる課題を用意しきめ細やかな対応を測る。 複数の教員が同じIT機器や課題を共有し相互間で使えるようにしたい。
理科		<ul style="list-style-type: none"> 満足度は概ね高い。 主体的に取り組もうという姿勢をいかに生じさせるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 専門外の教員間で授業を観察しあい、各々が持っていない視点での授業改善を常に行い、満足度の維持・向上を図る。 理科という学問の本質を生かし、論理的思考力を育むことができる授業構成を行う。
保健 体育		<ul style="list-style-type: none"> 前期よりも、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める活動があると答えた生徒の割合が増加している。 課題を適切に設定し、生徒がグループ活動やペアワークを通して課題を解決する機会を設けることができています。 批判的・論理的に思考し、表現する学習活動が不足している。 教科書の内容と日常生活とを関連させることで生徒の興味関心をより高めることができおり、思考する機会も多いと思われる。 前期からの引き続きの課題である、「批判的・論理的思考を促すための活動」について教科で工夫していけるとなおい。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続して感染症の状況を適切に判断しながら、ペアワークやグループワークも工夫して、互いに課題を発見したり、アドバイス等を行ったり課題を解決する機会を作っていく。 引き続き、課題を適切に設定し、生徒がグループ活動やペアワークを通して課題を解決する機会を設ける。 ICTを活用し、試合動画の分析をする活動を取り入れる等、批判的・論理的思考を育み、グループ内での発表やグループごとの発表をするなどして思考したことを表現する機会を設ける。 今後も教科書の内容と日常生活を関連させることで、批判的・論理的に思考したり、思考したことをプリントにまとめたり、発表したりする機会を設ける。 より批判的・論理的思考を促すために教科内で情報を共有するなど、意見交換を行う。
芸術	音楽	<ul style="list-style-type: none"> 満足度は概ね高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃よりお互いの授業に関する意見交換を行う。
	美術 工芸 書道	<ul style="list-style-type: none"> 満足度は概ね高い。 (4)(5)および(11)(12)の項目の評価が低めである、 	<ul style="list-style-type: none"> さらに満足度を高めるため、教科内で協議を行い、授業内容や課題の扱い方を工夫する。 グループワークができる授業では導入部分などで主体的、協働的な活動を可能な限り組み入れる。
外国語 国際		<ul style="list-style-type: none"> 満足度はおおむね高いが、(1)の項目がほかの項目と比べてやや満足度が低かった科目がいくつかあった。 (6)の項目もやや低い科目があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の際にその活動を行う意図を明確に生徒に伝えたり、前の授業で学んだことを振り返ったりして、生徒の勉強意欲や知識を高める。 生徒が力がついたと実感できるように、生徒のレベルに適切に合わせた授業を行い、復習をしっかりと行うように生徒に促す。
家庭 看護		<ul style="list-style-type: none"> 満足度は概ね高い。 単元や学習のねらいの明確化をより意識的に示す必要がある。 生徒自身が「理解できた」「できるようになった」や身に付けたという実感をえられる場面設定の工夫も必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科内での情報共有を積極的にとり、題材設定の改善につなげる。(教科内でのコミュニケーションの機会を増やす。) ワークシートに明記することやPowerPointのタイトルの工夫等で改善につなげる。(見せ方を工夫する。) 具体例や自分たちの生活の身近なことと結びつける教材を工夫することで、学習の実感をえられるのではないか。(教材を工夫する。)
情報		<ul style="list-style-type: none"> 満足度は概ね高く(4)(3)を選んだ生徒がほとんどである。 	<ul style="list-style-type: none"> (4)を選択する生徒を増やせるよう表現活動やグループワークなどを増やしていく。 (2)(1)を選んだ生徒もいるので、授業研究を行い生徒にわかりやすい表現や活動を行えるように心掛ける。
舞台 芸術		<ul style="list-style-type: none"> 満足度は概ね高い。 非常勤講師の専門性に頼る部分が多い 専門性の高い科目では、評価項目に対応しにくい面がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開を常に行い、意見交換等を行う。 教諭と非常勤講師の間で積極的にコミュニケーションをとり、授業内容を分析し、改善するためのミーティングを行う。 単元や学習のねらいを明確に示し、生徒に意識付けをする。